

医療体制の充実で 単年度黒字化

平成23年度決算の概要と、24年4月～7月の経営状況についてお知らせします。

平成23年度決算の概要

平成23年度は、消化器科医1名を増員すると共に、総合内科医の増員により内科医を13名とし、医療体制をさらに強化しました。

加えて、血管造影室を整備して検査機能を強化し、循環器科における診療の一層の充実を図りました。

この結果、患者数は、入院が9万4074人となり、前年度と比較して8460人の増となりました。これに伴い、病床利用率は一般病床で前年度に比べて6.5ポイント増の76.3%となりました。

外来は前年度に比べて1431人の増となりました。また、一人当たりの診療収益が入院・外来ともに増加したことにより、病院事業収

益全体では68億3千万円と、前年度に比べて5億4千万円の増収を達成することができ、計画よりも2千万円上回りました。

一方、病院事業費用では、診療体制の充実に伴う医療スタッフの増員と、診療に使用する材料費などの増加で、前年度に比べて3億8千万円の増となりました。

単年度資金収支は約9千万円の黒字となり、最終的に約1千4百万円の純利益となりました(表1)。

平成23年度の主な取り組み

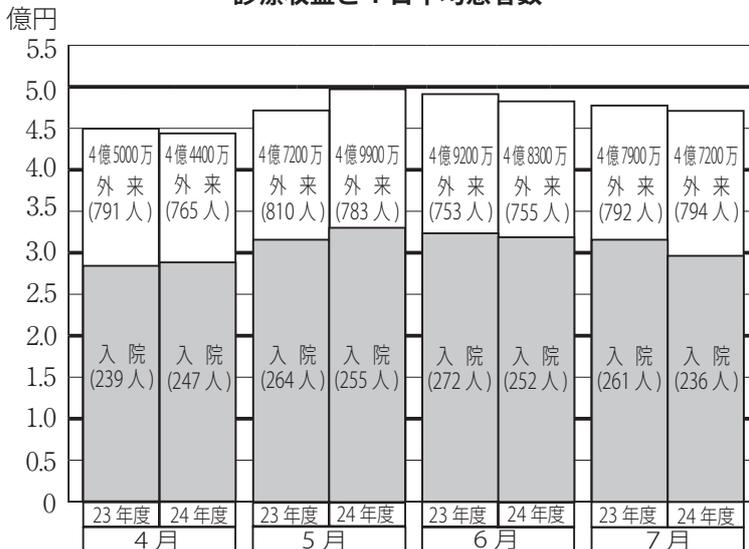
【医療体制の整備】

- 消化器科医・総合内科医に加えて、看護師・助産師や臨床工学技士の増員
- 血管造影室の整備により検査機能を強化し、循環器科における診療を充実

表1 平成23年度決算と前年度との比較増減

区分	平成23年度	平成22年度	比較増減	
病院事業収益	68億3千万円	62億9千万円	5億4千万円	
病院事業費用	68億2千万円	64億4千万円	3億8千万円	
単年度純損益	1千4百万円	△1億5千万円	1億6千4百万円	
不良債務残高	4億7千万円	5億6千万円	△9千万円	
患者数	入院	94,074人	85,614人	8,460人
		257.0人/日	234.6人/日	22.4人/日
	外来	193,544人	192,113人	1,431人
		793.2人/日	790.6人/日	2.6人/日
病床利用率	一般	76.3%	69.8%	6.5%
	精神	76.0%	68.7%	7.3%

診療収益と1日平均患者数



- 栗山町と地域医療について協定を締結、江別・栗山医療連携会議の開催、他市町村への医師派遣推進
- 健康セミナー、糖尿病教室の充実
- 地域の医療機関からの検査受託対応の推進

【地域医療支援の充実】

- 内科救急の夜間受け入れを土日祝日を含めた毎日拡大
- 医療の質と信頼の向上
- 医療安全、接遇向上に関する各種の取組推進
- 血管造影装置や人工透析装置、臨床検査機器などの計画的更新

【経営状況の改善】

- 各種検査、健(検)診、精神デイケア、作業療法法の推進

平成24年4～7月の状況

本年の状況は、臨床検査技師と精神保健福祉士をそれぞれ

平成23年度はこれらの取り組みを実行し、費用に対する収益の比率が高まるなど収支の改善が図られた結果、黒字を計上することができました。今後も引き続き経営健全化の取り組みを推進してまいります。

診療収益は、前年度の同時期と比較して同等水準となっていますが、1日あたりの患者数は前年と比べてやや下回る状況です。今後も健全化計画に基づく各種取り組みを着実に進め、病院再建に向け、職員一同、一層努力し、市民の皆様に信頼される地域の中核病院としての役割を着実に果たしてまいります。



医者のかかり方

外科副院長 **島崎 孝志**

今回はいつもと違った角度からの養生ばなしで、「医者のかかり方」をテーマにしてみました。

「医療は患者と医者との信頼と尊敬の関係から」と言われます。医学や医療についての情報が、患者さんと医者との間で格差がある以上、医者はそのことに十分配慮しながら、患者さんに真剣に対応すべきです。同時に、患者さんにも医療に対する自己責任が問われるようになってきましたので、医者任せにしないで、患者さん自身の責任で選ぶという姿勢が大切です。

私が医者になった40年前は、医療の殆どが医者任せの時代でした。その後医療技術が進歩し、複雑になってきました。また、医師の専門医化が進むと同時に患者さんの前には医療情報があふれてきました。患者さんにとっては治療の選択肢が増え、情報の共有化を図られることはとても良いことですが、患者さんの気持ちの負担が増えたと実感することがあります。

医者は大学で医学を学び、その後も医療の進歩に遅れまいといろいろ知識の更新をしていますが、その中でも患者さん(症例)から学ぶものがとても重要です。それは病気を退治するのではなく、病気を持っている患者さんを治療するからです。

医者にかかる上で必要なポイントを10箇条にまとめてみました。

- ①伝えたいことはメモして準備
- ②対話の始まりは挨拶から
- ③より良い関係作りはあなたにも責任が
- ④自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
- ⑤これからの見通しを聞きましょう
- ⑥その後の変化も伝える努力を
- ⑦大事なことはメモをとって確認
- ⑧納得できないときは何度でも質問を
- ⑨治療効果を上げるためお互いの理解が必要
- ⑩よく相談をして治療方法を決めましょう

医者は限られた時間で多くの患者を診ることがあります。どのようなことが気になるのかを整理して受診し、うまく答えを引き出してください。そして良くなった時は感謝の言葉を忘れずに。きっと良い関係が築けます。

市立病院

職員募集

募集職種と応募資格／看護師(経験者) 昭和48年4月2日以降生まれで看護師の有資格者。
試験日／11月5日(月)、12月3日(月)。
必要書類／採用試験申込書、身上調査書、受験票(ともに市立病院事務局で配布するほか、市立病院ホームページでも入手可)、看護師免許証の

写し、最終学校卒業証明書、成績証明書。
応募方法／必要書類を試験日の5日前までに提出。
※非常勤職員(看護師・准看護師)は随時募集しています。
申込・詳細 市立病院管理課総務係 ☎ 382・5151 内線 2006



あすか会設立45周年記念講演会

精神科病棟での療養について、南1病棟紹介と回復過程における看護師の関わり(参加無料)
日時／10月18日(木)13時～。
会場／市立病院2階講義室。
講師／南1病棟師長 佐々木 恵。
詳細 あすか会 ☎ 383・2672 (今野)、同会事務局 ☎ 382・5151 内線 2600

健康セミナー

糖尿病教室

医師・臨床検査技師・薬剤師・看護師・管理栄養士が糖尿病についてわかりやすくお話しします。お気軽にご参加ください。申込不要。無料。

日時 10月12日(金) 15:00～16:00
会場 市立病院2階講義室
内容 フットケアって? (本間看護師)
尿検査について (安田臨床検査技師)
糖尿病網膜症って? (小林眼科医師)



日時 10月26日(金) 15:00～16:00
会場 市立病院2階講義室
内容 糖尿病はどんな病気なの? (田中内科医師)
糖尿病の飲み薬 (多田薬剤師)
糖尿病の食事 (藤川管理栄養士)
※都合により内容が変わる場合があります。

詳細 市立病院診療技術部栄養科 ☎ 382-5151 (内線 6821)